

【詩の部】

※作品内の表現については原文のまま掲載しています。

小学校 最優秀賞

「じんけんってなあに」

第一小学校 1年 浅利 樹輝さん

じんけんってなあに
がっこうでせんせいがおしえてくれた
わかったけどなんだかむずかしかった

じんけんってなあに
うちでおかあさんにきいてみた
おかあさんといっしょに
インターネットでしらべてみた
じぶんらしくしあわせに
いきることってかいてあった

しあわせにいきるって
どういうことなんだろう

いっしょうけんめいかんがえたけど
やっぱりよくわからないし
なんだかむずかしい
でもたいせつなことのようなきがする

ぼくはたのしいとおもうことがしあわせ
がっこうにいくこと
ともだちとあそぶこと
ゲームをすること
キーボードをひくこと
おかあさんとおはなしすること
どれもたのしくてうれしいきもちになる

たのしいをいっぱいあつめたら
しあわせにいきるってことになるのかなあ

やっぱりよくわからないし
なんだかむずかしいけど
そうだったらいいなあ

小学校 優秀賞

「ちがうってすてき」

第一小学校 1年 川口 桜禾さん

ともだちと すきな色がちがうってわるいこと？

じぶんとはすきな色がちがうってだけ

ともだちと すきなあそびがちがうってわるいこと？

じぶんがしらないうことがわかるようになるからたのしいこと

ともだちと 見た目がちがうってわるいこと？

かおの色やかみがた せのたかさ

じぶんとはちがうってだけ

ともだちと すきなたべものがちがっても

オッケー

ともだちと いけんがちがってもオッケー

みんなとちがってもいいよ

たとえばまわりの人が みんな同じようなかおで

同じたべものしかなくて

どこにいっても同じものしかなかったら

つまらないし おもしろくないよ

だから ちがうってすてき

小学校 優秀賞

「わたしのともだち」

第一小学校 1年生 矢野 瑞樹さん

わたしのともだちは

すてきなところがいっぱい

わたしのともだちは

えをかくのがじょうず

わたしのともだちは

べんきょうがだいすき

わたしのともだちは

じぶんからはなしかけるのがじょうず

わたしのともだちは
おにごっこがだいすき

わたしのともだちは
とってもげんきであかるい

だれにだってすてきなところがいっぱいあるよ

そんなみんながだいすき

中学校 最優秀賞

「いじめや差別のない世界を」

長南中学校 1年 大北 蒼士さん

住んでる場所で差別してる
差別にあった人は、苦しんでる
差別するのは、おかしい
なんで差別するんだろう

「ケガレ」、「オソレ」
そう思うことは、しかたがない
でもだからといって、その人を、差別するのは、あかん

その街には、いい人がいて、いいところもたくさんあるのに、
あたたかい人たち、立派な仕事
一人ひとりのことをちゃんと知ろう
ちゃんと見ていこう
いじめや差別の無い世界をみんなでつくっていこう

中学校 優秀賞

「普段の電車」

日根野中学校 3年 山内 芙羽さん

何気なく電車に乗る
リュックを前にして座席に座る
一つ目の駅を過ぎて外を眺める

妊婦さんが電車に乗る

女の人が妊婦さんに座席を譲る
ありがとうございますと一言
二つ目の駅を過ぎて外を眺める

ヘルプマークをつけた人が電車に乗る
男の人が声をかけて座席を譲る
時々「大丈夫ですか」という声をかける
ありがとうございますと一言
三つ目の駅で私は降りた

今日この時から私もあの人達みたいに
あの優しさになりたい

中学校 優秀賞

「ただちがうってだけ」

長南中学校 1年 西山 舜城さん

ちがうってだけで差別してる
ちがうってだけで全然ヘンじゃない
ただちがうってだけ

ちがいが大きいから?
「ふつう」じゃないから?

「ふつう」じゃないといけないことなんて全然ない
自分たちの「ふつう」は
他の人の「ふつう」とはちがう

それがわかれば差別はなくなる
わたしたちは、ただちがうってだけ
